

(会議の経過) 第4回 波賀中学校区 学校規模適正化に係る地域の委員会

発言者	議題・発言内容
会長	<p>※次第「3. ①第3回委員会会議録について」内容及び市HP公開について委員了承。</p> <p>※次第「3. ②波賀小・野原小PTAアンケートの状況について」報告。</p>
委員	<p>《波賀小PTA》</p> <p>PTA臨時総会出席率が40%を切ったことから学校規模適正化・幼保一元化・給食センター機能集積の3点について、賛否ではなくどう思っているかのアンケートを実施した。会員127名中、73名から返信があった。適正化について8割以上が不安、一元化は2/3が反対、給食機能集積は9割が納得がいかないというものであった。給食機能集積についての住民・PTA・行政の意思疎通や対話、また検討が不十分との思いから、行政の説明に対して懐疑的で協力できないというものが多かった。適正化については時間が迫っているという共通認識はあるが、波賀小校舎・校名は残してほしいという意見もあった。</p> <p>10月30日開催の行政懇談会では行政から十分な情報発信とのことだったが、住民にはそのような思いはない。私見だが当委員会の状況など委員である代表から周知とのことであったが、行政からもPTAへの説明をしてもらい、知らなかったということがないようにしてほしい。</p> <p>※アンケート回答用紙を事務局に提出。</p>
会長	<p>次回までに事務局で要約するなどして提示してほしい。</p>
事務局	<p>次回報告する。</p>
事務局	<p>市民との合意形成や対話が不十分ということについて、検証委員会委員への結果報告や市民への発表が、インターネット、しそチャンネル、しーたん通信で市議会中継と議会広報やマスメディアによる報告のみとなり十分ではなかったと思う。検証委員会では、地域振興を協議する場を求められる意見と市長との懇談を求める意見、そして集積決定までに存続・廃止を含めた協議の場を求める大きく3つの意見があったと思っており、市民との対話機会を求められているその意向を十分に認識し、検証委員会の中で協議の持ち方や実施時期について検討させていただくという発言もし、市長部局を中心に検討してきたが、結果的に市民の皆さんと協議する場を持てなかったことは事実であり申し訳なく思っている。市民の皆さんとの対話、合意形成は大切・重要なことであり、昨日の行政懇談会において地域振興への市民の皆さんの不安等を解消するため、きっちりとした組織・仕組みをつくり検討、協議しながら波賀の地域振興に取り組みたいと副市長より発言したところである。</p> <p>適正化について8割が不安に感じておられるというものであり、十分な対話が必要とは感じるが、まずは委員より各団体への周知をお願いし、必要に応じて説明にあがるようなことでお願いをしたい。</p>
事務局	<p>地域活性化、給食センター跡地活用も含めて、連合自治会長・まちづくり協議会長に検討の場の設置について依頼をしている。あわせて、住みたい町、満足できるまちづくりをするため、若者の意見も提案を求めたいと思っている。</p>
事務局	<p>市ホームページに市民が自由に意見を書き込めるところもあり活用いただきたい。</p>
会長	<p>各種計画等のパブリックコメントなどホームページで受け付けているが実際</p>

事務局	に意見や回答は少ない。市広報も含めて行政からの発信やPRはなかなか見られていない現状である。タウンミーティング制度もあるが周知が課題である。当委員会を中学校区でお願いした意図は、互いの校区の状況を知って協議していただきたいというもので、PTAや地域への説明についても当委員会で協議いただきたいと思う。
会長 委員	委員各位には所属団体への周知についてもお願いします。 《野原小PTA》 適正化について保護者18名中（就学前児童保護者含む）9割が子どもたちの生活に支障がない状態になれば賛成というものであった。自治会や地域団体も保護者の意向を尊重するということである。
事務局 委員	アンケートの中で、遠距離通学対策はすべてスクールバスと想っていたが、飯見の方からは健康のため歩きでもいい、また別では冬期が危険というような意見もあった。他にNJ Aの交流のことを知ってほしい、ほかに道谷の山村留学について知りたいなどもあり、アンケートは個人の意見の範疇を超えていない感がある。
事務局 委員	適正化の実施時期について、アンケートはとられたか。 時期はとっていないが、27年4月という話も出したが、早い・遅い両方の意見があった。
事務局	※次第「3. ③学校規模適正化に関する課題に対する市の考え方や対応等について」事務局より報告。 ※次第「3. ④今後の協議のあり方について」これまでの地域等への説明の経過を事務局より報告し、周知不足という意見に対して当委員会での協議を依頼する。
会長 委員	適正化推進計画について住民の理解はどうか。 計画に関して知らない人はないが、統合に向って具体的なことがわからず不安が募っている。
委員	野原小校区では個人の意見は多く出ており、それを団体の意見としてまとめていく段階である。その途中経過を波賀小校区の方々にも話していかないといけないと思っており、波賀小校区委員にとっては負担だろうが、野原小校区の思いを知ってもらおうという部分の周知が足りないのではないかと思う。
委員	波賀小PTAアンケート未回答者は役員も含めて40数名あり、行政が言っているからどうしようもないという思いなのか、波賀小が受け入れるという感覚がぬぐえないのか、いずれにしてもできるだけ数多く議論する場が必要だと思う。市が実施した説明会でも会員の1/3程度しか参加していないのではと思うので、聞いていないという保護者が無いように、また最後の最後で議論がひっくり返るようなことがないように、その方法についても教えてほしい。
会長	文化祭等での周知や子どもにチラシを持ち帰らせるなど方法はあると思う。各校区の状況を知ることは大事なことであり、事務局で検討、対応してほしい。
事務局	千種では協議会だよりを発行し、保護者に会議の状況や決定内容等の周知を行った。当地域の委員会の議論の状況や、今後の予定などお知らせできるように

	検討する。
委員	協議期間について、1 月から P T A の新役員体制の検討に入る。協議会への移行は別として、3 月末に新役員にしっかり引き継げるようにしてほしい。P T A 役員に市職員になることについて不具合はあるか。
事務局	職員の P T A 活動について規制等は一切していない。
会長	委員の引き継ぎについては、委員の責任として願います。
会長	協議期間についてどうか。
委員	野尻幼稚園 P T A として、現状から形態は別として平成 26 年 4 月から幼稚園の統合をしてほしいという意見が出ており、野尻幼稚園は近々の問題である。小学校が適正化され、幼稚園だけが残ることは避けたい。野原地区の幼保の議論は終了している。
会長	野尻幼稚園は小学校が隣接しているから 2 人でも成り立っているが、小学校がなくなったら園だけでは存続はできない。
事務局	行政懇談会で野尻幼稚園の他にも特に規模の小さい幼稚園について、幼児教育の環境整備の点からも、幼稚園も地域に育ててもらった地域の財産ではあるが、地域の理解によって統合も考えたいと説明はした。
会長	現在も波賀幼稚園との交流事業を行っている。
委員	野原地域では野尻・引原小の統合に続いて二度目の統合であり、濃密な意見交換ができており、校区の意見にまとめていきたい。
事務局	野原・道谷小校区においては、適正化後の気になることなど、地域としてのまとめをお願いしたい。波賀小校区においては、教委事務局より状況周知のチラシ等を配布するので、個人の意見を団体の意見とし、P T A としてこれだけは確認が必要であるという点についてのまとめをお願いしたい。
委員	P T A 役員会等で検討する。
委員	野原小校区では過去の経験から同等合併がいい。他に道谷～日見谷間は 20 数 km あり、校舎位置についても一度は野原に持ってきてほしいという意見を言ってほしいという意見もあった。
委員	波賀小は小高い場所にあり積雪時は車両の通行に困ると聞いた。野原は積雪時でもスクールバスが通行できないことはない。また他の地域では小中学校の校舎が新しくなっているところもあり、波賀もきれいな校舎にしてほしいという思いもある。
事務局	各校区の思いをまずテーブルに出し、それから検討・協議をいただきたい。
委員	アンケートの一部だが、波賀町内の学校なのに波賀小学校以外に校名はあるのかというものもあった。P T A の会議の場では、教育委員会の方針はあるが、校舎の場所はまだ決定していないと説明している。キャパ的には野原小学校でも可能かもしれないが、南の大きな学校の児童の多くが通学することはどう

事務局	<p>か、また制服は今のものを使ってほしいなどの意見もあった。</p> <p>千種では保護者の意見を集約し制服は作らず、体操服の冬服を作ることを協議会で決定された。また、制服については子どもの体格変化もあり、3年間の期間を設けて順次切り替えていく方法を協議会で確認した。</p>
会長	適正化に向けて進んでいくという認識についてはどうか。
委員	野原小学校区の懇談会でも26年4月目標ということは出ており、内容の未周知部分の周知も含めて9割は賛成しているが道谷の意向もある。
委員	時期の問題や整理しないといけない部分は多くあるが、適正化の方向では進めていくべきだろうと思う。早急に周知や意見集約、議論が必要である。いずれにしても各団体は年度で役員も交代することから、年度内の意見集約が必要だと思う。
委員	野原小校区の雰囲気としては適正化を進めるべきとは思いますが、波賀小PTAの80%が不安に感じているという課題もあり、行政への不満もたまっていると思う。野原・道谷小校区は適正化の方向に向いており、波賀小校区において教育委員会とPTAとが繰り返し議論し、課題を解決できるようにしてほしい。
委員	子どもの人数を考えると適正化にむかわざるをえないだろう。今後、課題をどう解決するかではあるが、今年度3月末までには結論を出したいと思う。
委員	住民と行政の意思疎通が必要であり、後にしこりを残さないよう、だが見切り発車することなく、じっくり話し合ってもらいたい。住民への周知方法について、インターネット環境が整っている家庭ばかりではないので、検討してほしい。
委員	校舎の場所など大きな問題はあるが、委員の意見は適正化もやむを得ないというものになっている。
委員	波賀幼稚園PTAでもアンケートをとったが、適正化への関心は温度差があり、幼稚園PTAとしても周知しないとけないと思う。
委員	幼稚園アンケートの中で野原に集約できないか、道谷出身者から道谷小を残せないかなどの意見があった。他に、スクールバス、国際交流、山村留学、廃校後の校舎の活用などが気になるとの意見があった。
委員	野原小PTAアンケートでは若い保護者のNJA活動を続けてほしいというものや、現在の低学年児童は自分も将来行きたいという思いの児童もあり、特色のある学校づくりでもあり、新しい学校でも考えてほしい。
会長	<p>お互いに課題を認識し、克服に向けての協議をお願いします。協議期間については年度内に方向性を決定する方向で進めていくこととする。</p> <p>※次回は平成24年11月29日(木)午後7時30分から開催する。</p>